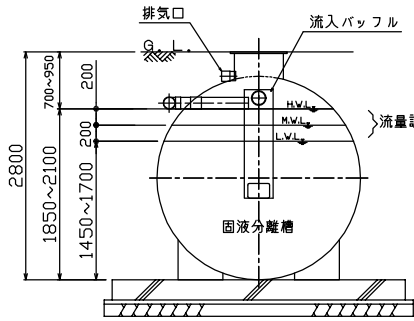
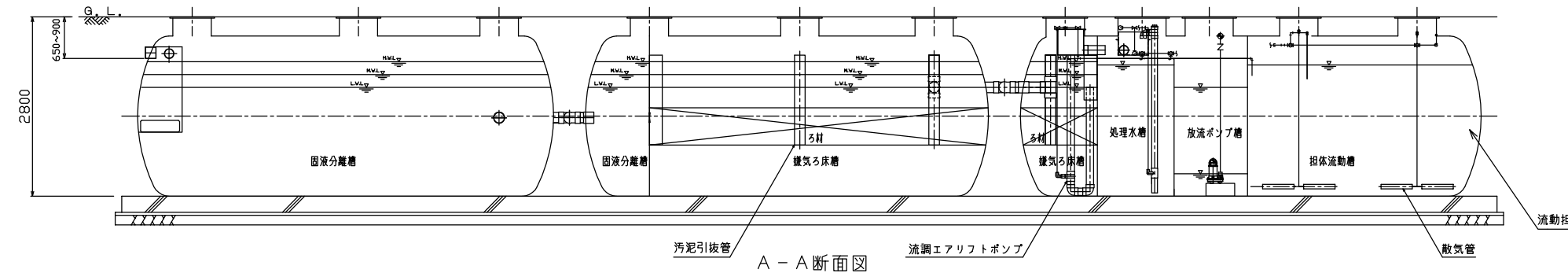
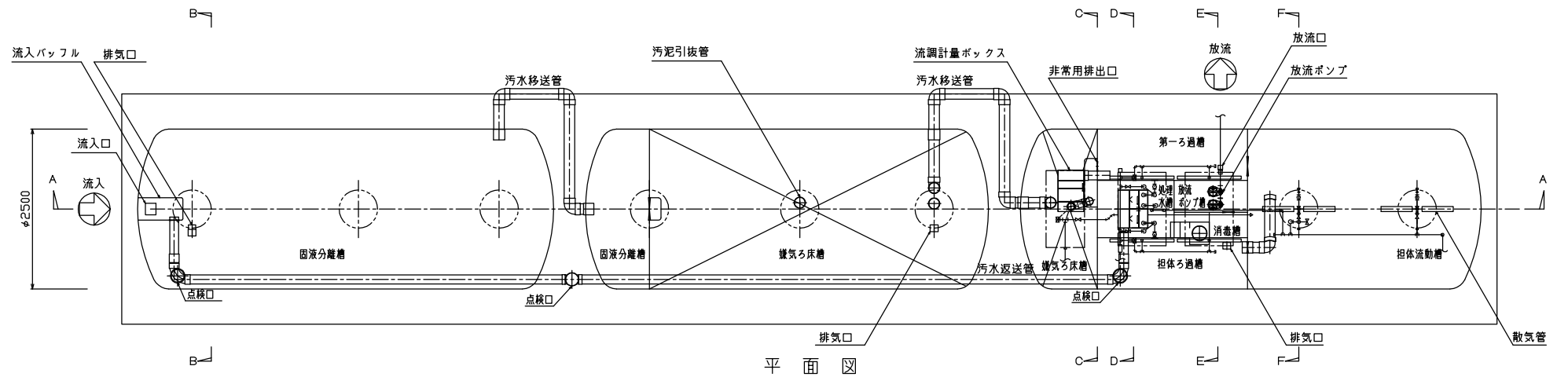


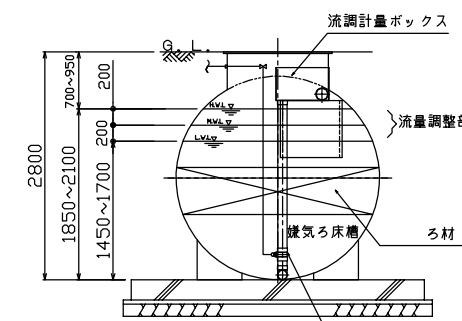
型式適合認定書別添仕様書及び図面

建築基準法施行令第35条第1項の大臣認定による担体流動ろ過循環方式
【大臣認定番号(認定年月日): DW3N-0159(平成27年9月14日)】

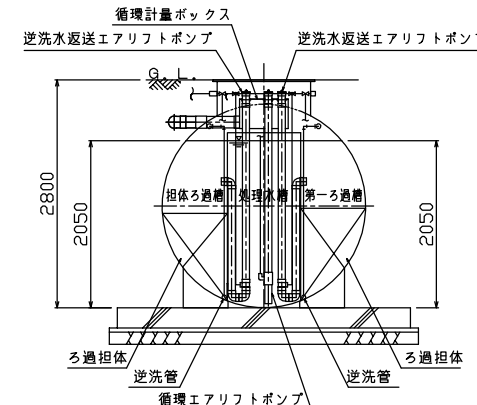
会社名	株式会社 クボタ		
	〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 電話06-6648-2111		
形式	クボタ浄化槽 KTZ-3A		
型式適合認定番号	型01CafOa1034705	認定年月日	令和3年12月24日
処理対象人員	51人~2380人	日平均汚水量	2.55~119.0m ³ /日
流入BOD	50~450mg/L		
放流水質	大臣認定による性能 : BOD 20mg/L以下 COD 30mg/L以下 SS 10mg/L以下		



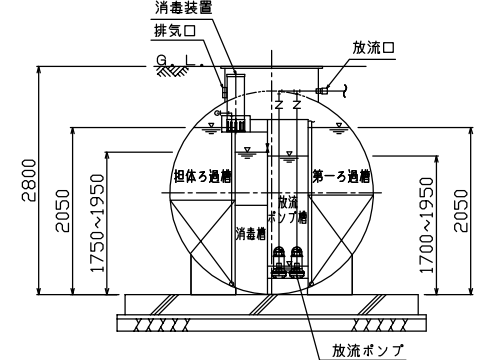
B-B断面図



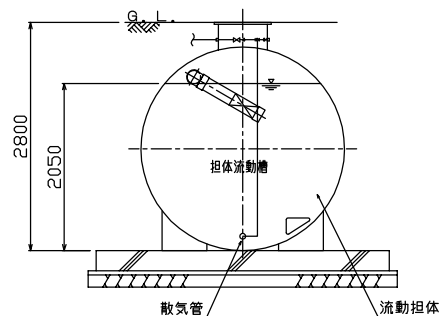
C-C断面図



D-D断面図



E-E断面図



F-F断面図

有効容量 (m ³)	仕様表			
	固液分離槽	11.567~59.841		
	嫌気ろ床槽	6.137~37.725		
	流量調整部	5.030~25.887		
	第一ろ過槽	1.000~4.690		
	担体流動槽	2.983~30.985		
	担体ろ過槽	1.000~4.690		
寸法 (mm)	処理水槽	0.712~3.431		
	消毒槽	放流ポンプ槽付き 0.238~1.259、自然放流0.238~1.407		
	固液分離槽	幅2500	長さ4400~17300	深さ1450~1700
	嫌気ろ床槽	幅2500	長さ2400~13100	深さ1450~1700
	流量調整部	幅2500	長さ6800~28150	深さ400
	第一ろ過槽	幅800	長さ800~3750	深さ2050
	担体流動槽	幅2500	長さ850~7350	深さ2050
材料及び機械設備の仕様	担体ろ過槽	幅800	長さ800~3750	深さ2050
	担体ろ過槽	幅800	長さ850~7350	深さ2050
	担体ろ過槽	幅800	長さ800~3750	深さ2050
	処理水槽	幅900	長さ350~1900	深さ2050
	消毒槽	放流ポンプ槽付きW400、L350~1850×H1750 自然放流W400、L350~1850×H1750~1950		
	躯体	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 板厚8mm以上		
	仕切板	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 板厚6~9mm以上		
	固液分離槽	有効容量(m ³)	8.0/24Q以上	
	槽容量	有効容量(m ³)	7.2/24Q以上	
	嫌気ろ床槽	充填率	40~49%	
		形状	骨格様球状	
	第一ろ過槽	材質	PPまたはPE	
		寸法	φ154mm	
		比表面積	66m ² /m ³	
	担体ろ過槽	形状	中空円筒状	
材質		PPまたはPE		
寸法		φ14~16×L15mm		
担体流動槽	比表面積	380m ² /m ³		
	BOD容積負荷	1.00kg/m ³ ・日以下		
	充填率	30~45%		
担体ろ過槽	形状	角形スポンジ状		
	材質	PUまたはPVA		
	寸法	20□×20mm		
担体ろ過槽	比表面積	300m ² /m ³ 以上		
	形状	中空円筒状		
	材質	PPまたはPE		
消毒槽	寸法	φ14~16×L15mm		
	比表面積	380m ² /m ³		
	薬剤接触時間	15分以上		
送風機	薬剤の種類と接触方法	塩素錠剤・浸漬式		
	薬剤の貯留日数	90日以上		
送風機	形状	フリーピストン式またはダイヤフラム式またはロータリー式またはルーツ式		
	吐出風量	60~4,280L/分		
送風機	台数	1台以上		
	流入管・移流管	PVC (硬質塩化ビニール)	内径(mm)	40~200
放流管	PVC	40~100		
汚泥移送管・エアリフト管	PVC	内径(mm)	40~100	
	送気管		PVC	13~50
マンホール	材質	铸铁/レジンコンクリート	内径(mm)	600
		プラスチック(PP/FRP)		
チェッカープレート	材質	锈钢板/铸铁/FRP	内径(mm)	600×1000
				600×1200
				750×1150
				750×1650
				1200×1200

注) 寸法の単位はmm、容量の単位はm³とする
注) 容量、寸法については範囲で示す。
注) 「深さ」は有効水深とする。

特記事項

- ・流調エアリフトプロワを専用で据え付ける場合がある。
- ・振動・騒音・防音対策は必要に応じて行う。
- ・流入・設置条件によりオプション槽を組み合わせる。
- ・オプション槽とは原水ポンプ槽、油水分離槽、汚水貯留槽、処理水貯留槽、水中プロワ槽などを言う。
- ・必要に応じて消毒装置を設ける場合がある。

保守点検の頻度: 1回/3ヶ月以上
清掃の頻度 : 1回/6ヶ月以上